

水生生物と亜鉛濃度等の関係（国土交通省調査結果）

国土交通省が実施している「河川水辺の国勢調査」における底生生物調査結果のうち、カゲロウ目、カワゲラ目及びトビケラ目に属する生物種（E P T種）数と、同一地点における各種水質指標との関係をグラフに示した。

選定地点：平成5～11年度に実施した河川水辺の国勢調査における底生生物調査地点のうち、感潮域などE P T種の生息に適さないと考えられる地点を除いた全国51水系169地点

水質指標：平成11～13年度における各地点の常時監視データを使用

E P T

E（Ephemeroptera）カゲロウ目（蜻蛉目）、P（Plecoptera）カワゲラ目（セキ翅目）、T（Trichoptera）トビケラ目（毛翅目）の頭文字をとった略称。ここでは、カゲロウ目、カワゲラ目、トビケラ目に属する生物種の合計数を「E P T種数」としている。

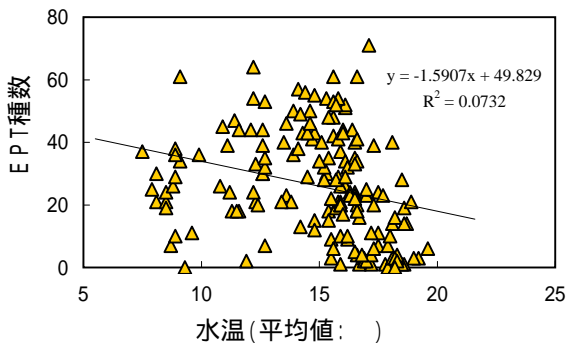
カゲロウ目、カワゲラ目、トビケラ目は清浄な水域に生息する底生生物であり、水質的にきれいな水域ではこれらの種数が多い。逆に、水質の悪化により種数が少なくなりやすいため、水質汚染の指標として使われることが多い。ただし底質に礫が少ない場合には、水質的に清浄であっても種類数が極端に少なくなる場合もあり、指標として評価する場合には場の環境に留意する必要がある。

河川水辺の国勢調査

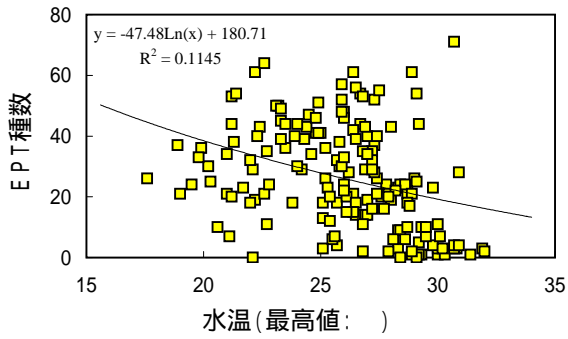
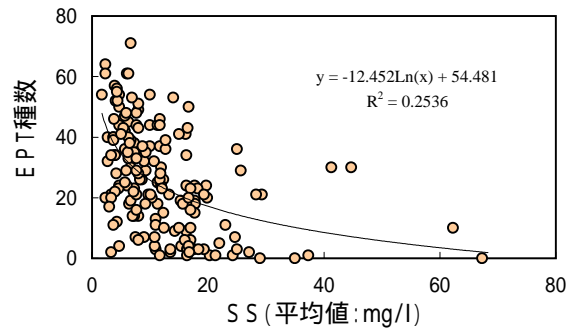
調査の内容は「魚介類調査」「底生動物調査」「植物調査」「鳥類調査」「両生類・爬虫類・哺乳類調査」「陸上昆虫类等調査」の6種の生物調査と河道の瀬・淵や水際部の状況等を調査する「河川調査」、河川空間の利用者などを調査する「河川空間利用実態調査」の8項目である。

生物調査は、同一年度に全国109の一級水系の河川等のすべてについて、同一調査項目を一斉に実施するのではなく、例えば一級水系の河川については、毎年各項目を109水系の1/5程度で実施し、5カ年で各調査が一巡するように行われている。

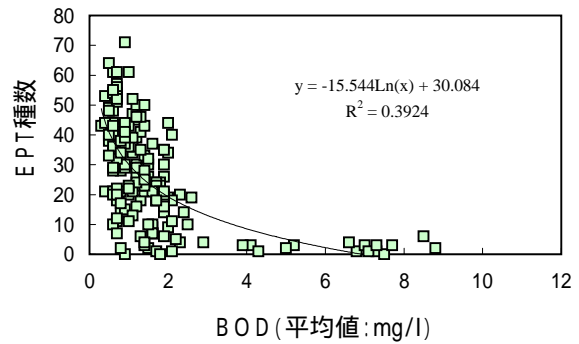
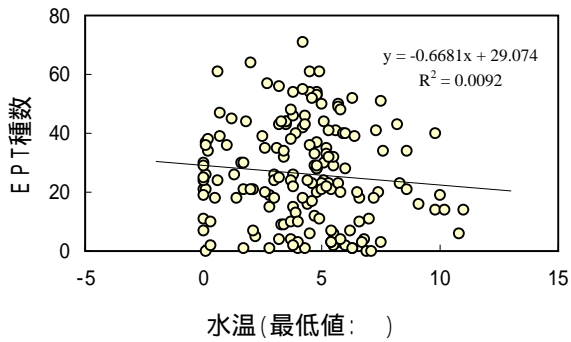
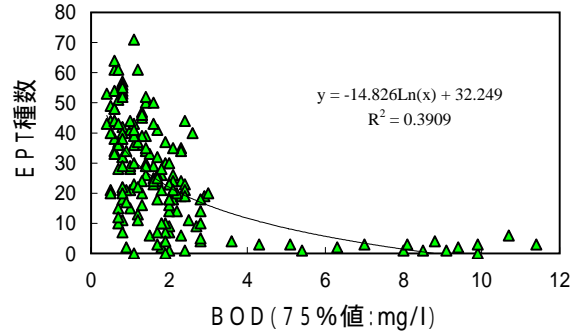
水生生物と水温の関係 (51水系168地点)



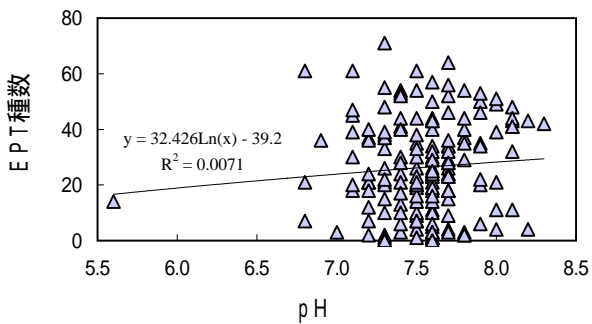
水生生物とSSの関係 (51水系169地点)



水生生物とBODの関係 (51水系169地点)



水生生物とpHの関係 (51水系169地点)



水生生物とCODの関係 (51水系169地点)

